

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月10日

【四半期会計期間】 第2期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 株式会社ハーツユナイテッドグループ

【英訳名】 Hearts United Group Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 CEO 宮澤 栄一

【本店の所在の場所】 東京都港区六本木六丁目10番1号

【電話番号】 03(6406)0081

【事務連絡者氏名】 取締役 CFO 風間 啓哉

【最寄りの連絡場所】 東京都港区六本木六丁目10番1号

【電話番号】 03(6406)0081

【事務連絡者氏名】 取締役 CFO 風間 啓哉

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第2期 第2四半期 連結累計期間	第1期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(千円)	6,199,178	10,137,958
経常利益	(千円)	719,220	1,788,544
四半期(当期)純利益	(千円)	341,456	1,087,820
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	360,046	1,103,312
純資産額	(千円)	4,046,121	3,766,848
総資産額	(千円)	7,974,029	7,160,543
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	28.59	91.92
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	28.59	91.07
自己資本比率	(%)	49.8	51.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	85,309	1,561,612
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	362,742	368,082
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	362,858	308,077
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,059,498	3,693,276

回次		第2期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	17.25

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は平成25年10月1日付けで単独株式移転の方法により設立されたため、前年同四半期連結累計期間に係る記載はありません。
3. 第1期の連結財務諸表は、単独株式移転の方法により完全子会社となった株式会社デジタルハーツの四半期連結財務諸表を引き継いで作成しております。
4. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当社グループは、第1四半期連結会計期間より、株式会社プレミアムエージェンシーを連結子会社化したことに伴い、同社の「3DCGコンテンツ開発事業」を「クリエイティブ事業」とし、新たな報告セグメントとして記載するとともに、前連結会計年度まで「その他」として区分していた「開発アウトソーシング事業」及び「映像制作事業」を当該セグメントに含めております。

これに伴い、当社グループの報告セグメントは、従来までの「デバッグ事業」及び「メディア事業」に、新たに「クリエイティブ事業」を加えた3つへ変更しております。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載しております。

なお、変更後の事業セグメントは以下のとおりであります。

事業セグメント	事業内容	主な関係会社	
デバッグ事業	ソフトウェアの不具合を検出し顧客に報告するサービス	株式会社デジタルハーツ DIGITAL Hearts Korea Co.,Ltd. DIGITAL Hearts USA Inc. DIGITAL Hearts(Thailand) Co.,Ltd.	
	主に家庭用ゲームソフトウェア、オンラインゲームを対象としたデバッグサービス		
	主にソーシャルゲームやスマートフォンアプリ等モバイルコンテンツを対象としたデバッグサービス		
	主にパチンコ・パチスロ等の遊技機を対象としたデバッグサービス		
メディア事業	日本最大級の総合ゲーム情報サイト「4Gamer.net」の運営等	Aetas株式会社 株式会社リインフォース(関連会社)	
クリエイティブ事業	3DCGコンテンツ開発事業	3Dグラフィックスエンジン「千鳥」を技術基盤としたCG映像制作サービス	株式会社プレミアムエージェンシー
	開発アウトソーシング事業	ゲームの開発工程の一部を受託し開発を行うサービス	株式会社G & D
	映像制作事業	映像加工技術全般を提供するサービス	株式会社デジタルハーツ・ビジュアル
その他の事業	システム開発事業	ITサービスに関わる総合的なソリューションを提供するサービス	株式会社ネットワークニー
	Fuguai.com事業	不具合情報のポータルサイト「Fuguai.com」の運営	株式会社デジタルハーツ
	デジタルハーツ・クリエイターズ・ネットワーク事業	クリエイターの育成が可能となるユーザー参加型ゲームの運営	株式会社デジタルハーツ

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(クリエイティブ事業)

第1四半期連結会計期間において、株式取得及び第三者割当増資引受により株式会社プレミアムエージェンシーを子会社化したため、同社を連結の範囲に含めております。

(メディア事業)

持分法非適用としておりました株式会社リインフォースにつきましては、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間から持分法適用の範囲に含めております。

この結果、平成26年9月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社9社及び持分法適用関連会社1社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社は、平成25年10月1日に単独株式移転の方法により株式会社デジタルハーツの完全親会社として設立されており、連結の範囲に実質的な変更はありません。

このため、前年同四半期と比較を行っている項目については、株式会社デジタルハーツの平成26年3月期第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)と比較しております。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響がある中、企業収益並びに雇用・所得環境は緩やかに回復しつつあるものの、新興国及び欧州等に起因する世界経済の下振れリスクが存在しており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻くデジタル関連市場においては、スマートフォンやタブレット端末の普及によるデバイスの複雑化並びにインターネット環境の飛躍的な進歩により、コンテンツ及びサービス等の変化に伴うビジネスモデルの多様化が急速に進んでおり、この流れを受け、当社グループの収益機会も増加するものと見込んでおります。

特に、デバッグ事業と関連するソフトウェア・コンテンツ市場においては、高品質な製品開発に対する社会的ニーズが高まっているため、当社グループでは、デバッグ需要のさらなる取り込みに注力し、製品の品質向上を支えるパートナーとして顧客企業からの高い信頼を獲得して参りました。

また、ユーザー動向のリサーチやレビュー等に関する顧客企業のニーズが増加していることを受け、これまでデバッグ事業で培ってきた「ユーザー目線」による独自のテストノウハウを最大限に活用し、ユーザーの意見を取り入れた訴求力の高い製品開発を支援するリサーチ及びコンサルティングサービス「DH-EYE」の提供を開始するなど、付加価値の高いサービス提供に注力して参りました。

さらに、多様化する顧客ニーズに対応した最適な検証環境を構築するため、特殊な電波環境を再現する「シールドルーム」を設置するなど、デバッグ設備の充実化を図るとともに、事業の垣根を越えた多角的な業容拡大を目的として、平成26年4月1日付けで「3DCGコンテンツ開発事業」等を行う株式会社プレミアムエージェンシーを子会社化するなど、中期経営計画の初年度としてその達成を実現する戦略投資を重点施策として取り組んで参りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、引き続きデバッグ事業が伸長するとともに、連結子会社化した株式会社ネットワークニー及び株式会社プレミアムエージェンシーの影響により、6,199,178千円(前年同四半期比33.1%増)となりました。

営業利益は、事業モデルの異なる子会社の連結に伴い営業費用が増加したことに加え、デバッグ事業を中心に将来を見据えた人材確保等の積極的な投資を実施した結果、723,044千円(前年同四半期比15.8%減)、経常利益は719,220千円(前年同四半期比16.3%減)、四半期純利益は341,456千円(前年同四半期比32.0%減)となりました。

連結業績

	平成26年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期	増減率
売上高	4,659,121千円	6,199,178千円	33.1%
営業利益	858,817千円	723,044千円	15.8%
経常利益	859,122千円	719,220千円	16.3%
四半期純利益	502,500千円	341,456千円	32.0%

セグメント別の状況は、以下のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、株式会社プレミアムエージェンシーを連結子会社化したことに伴い、同社の「3DCGコンテンツ開発事業」を「クリエイティブ事業」とし、新たな報告セグメントとして記載するとともに、前連結会計年度まで「その他」として区分していた「開発アウトソーシング事業」及び「映像制作事業」を当該セグメントに含めております。

これに伴い、当社グループの報告セグメントは、従来までの「デバッグ事業」及び「メディア事業」に、新たに「クリエイティブ事業」を加えた3つへ変更しております。

また、第1四半期連結会計期間より、セグメントの業績をより適切に評価するために費用の配分方法等を変更しております。

このため、前第2四半期連結累計期間の各セグメントの利益又は損失については、変更後の算定方法により組み替えるとともに、前年同四半期比については、前第2四半期連結累計期間の数値をセグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

なお、各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しており、セグメント利益又は損失は営業利益ベースとなっております。

デバッグ事業 売上高 4,530,036千円、セグメント利益 1,116,972千円

当セグメントにおいては、顧客企業が求める不具合のない高品質な製品開発に貢献すべく、製品の品質保持及び品質向上に必要不可欠な最終チェックであるデバッグ工程のアウトソーシングサービスを提供しております。

() **デバッグ事業：コンシューマゲームリレーション** 売上高 1,690,455千円

主に、コンシューマゲームソフト向けのデバッグサービスを提供している当該リレーションの関連市場であるコンシューマゲーム市場では、「PlayStation®4」や「Xbox One」等の新型ハードの登場により、今後のゲーム市場の盛り上がり期待されています。

このような状況のもと、家庭用ゲーム開発においては、マルチプラットフォーム対応のゲーム展開が本格化するとともに、ダウンロード販売やフリートゥプレイ課金など、オンライン機能を活用した新たなビジネスモデルも増加しております。

このため、当社グループでは、引き続き、既存顧客との関係強化に取り組み、大型タイトルの受注拡大を図るとともに、多様化する顧客ニーズに応じた提案力の向上及び営業活動に注力し、開発の早期段階から品質管理工程に関する総合的なサービス提供に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちコンシューマゲームリレーションの売上高は1,690,455千円(前年同四半期比4.6%増)となりました。

() **デバッグ事業：デジタルソリューションリレーション** 売上高 1,696,839千円

主に、モバイルコンテンツ向けのデバッグサービスを提供している当該リレーションの関連市場であるモバイルコンテンツ市場では、多種多様なスマートフォンアプリの充実化が進んでおり、特にネイティブアプリゲームを中心としたソーシャルゲーム市場は急速に拡大しております。

このような状況のもと、ソーシャルゲームの開発市場では、ユーザー嗜好の多様化に対応した新規のネイティブアプリゲームの開発が進み、タイトル数が増加していることに加え、モバイル端末の高性能化等に伴い1タイトルの開発規模は増大し、開発期間が長期化しております。

このため、顧客企業である開発会社においては、開発に経営資源を集中することを目的に、デバッグ工程をアウトソーシングする傾向が強いため、当社グループでは、継続的な案件の受注確保に加え、新規のネイティブアプリゲーム案件の獲得に向けた営業活動に注力して参りました。

さらに、システム検証分野において、平成25年11月29日付けで子会社化したシステム開発事業を行う株式会社ネットワークニーと連携し、組織横断的な営業活動の推進体制を構築するとともに、事業基盤の相互活用を推進し、平成26年11月に開設予定の「仙台技術センター」の準備を進めるなど、これまで以上に顧客ニーズに応じた提案力の強化に取り組んで参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちデジタルソリューションリレーションの売上高は1,696,839千円(前年同四半期比22.4%増)となりました。

() デバッグ事業：アミューズメントリレーション 売上高 1,142,741千円

主に、パチンコ及びパチスロ向けのデバッグサービスを提供している当該リレーションの関連市場である遊技機業界では、ユーザーの拡大につながるゲーム性が豊かな遊技機の開発が進んでおります。

このような状況のもと、当社グループの顧客企業においては、プログラムの複雑化及び映像面での演出ボリュームの増大等により、デバッグに要する作業工数も増加しております。

このため、当社グループでは、増加するデバッグ工数に対応した効率的なデバッグ体制を提案することで、主要顧客からの受注の拡大に努めるとともに、積極的な営業活動に注力したことが奏功し、より一層のシェアの拡大を図って参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちアミューズメントリレーションの売上高は1,142,741千円(前年同四半期比1.6%減)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業の売上高は4,530,036千円(前年同四半期比8.8%増)、セグメント利益は1,116,972千円(前年同四半期比3.2%増)となりました。

メディア事業 売上高 235,580千円、セグメント利益 117千円

当セグメントにおいては、日本最大級の総合ゲーム情報サイト「4Gamer.net」の運営を通じ、サイト上でゲームメーカーをはじめとする顧客企業に広告サービスの提供を行い、プロモーション活動を支援しております。

当第2四半期連結累計期間においては、スマートフォン向けゲームに関するコンテンツを拡充するなど、ユーザーのニーズに対応した情報配信に努めるとともに、独自取材による付加価値の高い情報をスピーディに配信することで、メディアとしての信頼性の確保に努めブランド価値の向上に取り組んで参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のメディア事業の売上高は235,580千円(前年同四半期比9.3%減)、セグメント利益は117千円(前年同四半期比99.6%減)となりました。

クリエイティブ事業 売上高 810,830千円、セグメント損失 206,453千円

当セグメントにおいては、コンテンツ制作におけるクリエイティブ領域全般にわたる制作サポートサービスを提供しており、ゲーム開発のサポートを行う「開発アウトソーシング事業」、映像加工技術全般に関するサービスを提供している「映像制作事業」及び第1四半期連結会計期間に連結子会社化した株式会社プレミアムエージェンシーが行う「3DCGコンテンツ開発事業」等の事業を展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、連結子会社化した株式会社プレミアムエージェンシーにおいて、受注案件の縮小及び遅延の影響による一時的な損失の発生を受け、開発オペレーション体制の向上や販売費及び一般管理費の圧縮を推進することで利益改善に取り組んで参りました。

また、同社の事業及び既存事業で培ってきた技術力等を融合させることで、相乗効果の創出に努め、さらなる競争力の強化と収益基盤の拡大に注力して参りました。

当第2四半期連結累計期間のクリエイティブ事業の売上高は810,830千円、セグメント損失は206,453千円となりました。

その他 売上高 639,825千円、セグメント利益 24,485千円

当社グループでは、中期経営計画を達成すること及び多様な収益源を確保することにより安定的な事業の成長を図ることを目的として、新しいマーケットへの参入や事業ノウハウを活用した新規事業の開発に積極的に取り組んでおります。

その他の事業では、コンテンツプログラムから基幹システムまで幅広い開発を行う「システム開発事業」、不具合情報のポータルサイトを運営する「Fuguai.com事業」及びクリエイターの育成支援を行う「デジタルハーツ・クリエイターズ・ネットワーク事業」等の事業を展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、主にシステム開発事業が堅調に推移し、その他の事業の売上高は639,825千円、セグメント利益は24,485千円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産の残高は5,281,384千円となり、前連結会計年度末における流動資産5,549,319千円に対し、267,935千円の減少(前期比4.8%減)となりました。

これは、主として受取手形及び売掛金が469,860千円増加した一方で、現金及び預金が633,778千円減少したことによるものであります。

固定資産の残高は2,692,644千円となり、前連結会計年度末における固定資産1,611,223千円に対し、1,081,421千円の増加(前期比67.1%増)となりました。

これは、主としてのれんが628,459千円増加したことによるものであります。

(負債)

流動負債の残高は3,636,489千円となり、前連結会計年度末における流動負債3,372,863千円に対し、263,625千円の増加(前期比7.8%増)となりました。

これは、主として未払法人税等が153,875千円減少した一方で、短期借入金が378,011千円増加したことによるものであります。

固定負債の残高は291,418千円となり、前連結会計年度末における固定負債20,830千円に対し、270,588千円の増加となりました。

これは、主として長期借入金が208,378千円増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産の残高は4,046,121千円となり、前連結会計年度末における純資産3,766,848千円に対し、279,272千円の増加(前期比7.4%増)となりました。

これは、主として期末配当の実施に伴い利益剰余金が95,553千円減少した一方で、四半期純利益の計上により利益剰余金が341,456千円増加したことに加え、新株予約権の新規発行により新株予約権が14,548千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、3,059,498千円となり、前連結会計年度末における資金3,693,276千円に対し、633,778千円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は85,309千円(前年同四半期は478,615千円の収入)となりました。

これは、主として税金等調整前四半期純利益719,220千円及び法人税等の還付額152,360千円等の資金増加項目が、法人税等の支払額513,021千円及び未払金の減少額206,493千円等の資金減少項目を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は362,742千円(前年同四半期は90,365千円の支出)となりました。

これは、主として連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出214,649千円、無形固定資産の取得による支出63,972千円及び有形固定資産の取得による支出44,150千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は362,858千円(前年同四半期は57,623千円の支出)となりました。

これは、主として短期借入金の返済による支出1,645,700千円等の資金減少項目が、短期借入れによる収入1,410,000千円等の資金増加項目を上回ったことによるものであります。

(4) 従業員数

連結会社の状況

第1四半期連結会計期間において、株式会社プレミアムエージェンシーを連結子会社化したことに伴い、「クリエイティブ事業」を新たに報告セグメントに加えております。同社を連結の範囲に含めたこと等により、「クリエイティブ事業」セグメントの従業員数は、前連結会計年度末に比べ、168名増加しております。

(5) 生産、受注及び販売の状況

生産実績

事業の特性上、該当事項はありません。

受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
クリエイティブ事業	473,301		226,290	

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 当社は、平成25年10月1日に単独株式移転の方法により設立されたため、前年同四半期比は記載しておりません。
 4. 第1四半期連結会計期間より、株式会社プレミアムエージェンシーを連結子会社としたことに伴い、「クリエイティブ事業」を新たに報告セグメントに加えております。
 5. 当社グループの「デバッグ事業」及び「メディア事業」は、受注から役務提供までの所要日数が短く、期中の受注高と販売実績とがほぼ対応するため、記載を省略しています。

販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

区分		当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
		金額(千円)	前年同四半期比(%)
デバッグ 事業	コンシューマゲームリレーション	1,690,515	
	デジタルソリューションリレーション	1,694,841	
	アミューズメントリレーション	1,138,415	
	小 計	4,523,772	
メディア事業		235,580	
クリエイティブ事業		807,822	
その他		632,002	
合 計		6,199,178	

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社は、平成25年10月1日に単独株式移転の方法により設立されたため、前年同四半期比は記載しておりません。
4. 第1四半期連結会計期間より、株式会社プレミアムエージェンシーを連結子会社としたことに伴い、「クリエイティブ事業」を新たに報告セグメントに加えております。
5. 当第2四半期連結累計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、当該割合が100分の10以上である相手先がないため記載を省略しております。

(6) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は次のとおりであります。

国内子会社

当社は株式会社プレミアムエージェンシーの株式取得及び第三者割当増資引受により、同社を連結の範囲に含めております。この結果、以下の設備が増加しております。

会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				
			建物	工具、器具 及び備品	リース資産	ソフト ウェア	合計
株式会社プレミアム エージェンシー (東京都港区)	クリエイティブ 事業	本社事務所 コンテンツ 開発ツール	6,381	24,905	40,558	204,355	276,201

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	38,400,000
計	38,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,945,400	11,945,400	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 あります。
計	11,945,400	11,945,400		

- (注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式であります。
2. 提出日現在の発行数には、平成26年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	1,200	11,945,400	115	300,686	115	300,686

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
宮澤 栄一	東京都港区	5,200,000	43.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	858,800	7.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	647,600	5.42
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号	550,000	4.60
野村信託銀行株式会社	東京都千代田区大手町2丁目2番2号	435,100	3.64
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505041 (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	12 NICHOLAS LANE LONDON EC4N 7BN U.K. (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	350,000	2.92
ゴールドマンサックスインターナショナル (常任代理人 ゴールドマン・サックス 証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB, UK (東京都港区六本木6丁目10番1号)	220,400	1.84
若狭 泰之	東京都杉並区	220,000	1.84
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント (常任代理人 株式会社みずほ銀行決 済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4丁目16番13号)	156,000	1.30
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	114,000	0.95
計		8,751,900	73.27

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	473,100株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	53,600株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	45,900株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口3)	46,100株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	7,700株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	46,600株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	46,800株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	139,000株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	647,600株
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	445,600株
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金特金口)	58,400株
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	6,100株
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託A口)	7,000株
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託B口)	32,900株
野村信託銀行株式会社(投信口)	435,100株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,943,200	119,432	株主としての権利内容に制限のない 標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,200		
発行済株式総数	11,945,400		
総株主の議決権		119,432	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式2株が含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

(1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

(2) 当社は平成25年10月1日に設立されたため、前年同四半期との対比は行っておりません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,693,276	3,059,498
受取手形及び売掛金	1,483,727	1,953,587
たな卸資産	16,254	29,736
その他	359,446	286,608
貸倒引当金	3,384	48,046
流動資産合計	5,549,319	5,281,384
固定資産		
有形固定資産	323,470	365,075
無形固定資産		
のれん	595,594	1,224,054
その他	99,954	354,362
無形固定資産合計	695,549	1,578,417
投資その他の資産		
その他	600,284	749,165
貸倒引当金	8,081	13
投資その他の資産合計	592,203	749,151
固定資産合計	1,611,223	2,692,644
資産合計	7,160,543	7,974,029
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1,610,200	1,988,211
未払費用	524,235	575,341
未払法人税等	518,120	364,245
賞与引当金	49,612	55,599
その他	670,695	653,091
流動負債合計	3,372,863	3,636,489
固定負債		
長期借入金	12,150	220,528
その他	8,680	70,890
固定負債合計	20,830	291,418
負債合計	3,393,694	3,927,908
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,571	300,686
資本剰余金	300,571	300,686
利益剰余金	3,086,659	3,332,563
自己株式	4	4
株主資本合計	3,687,797	3,933,931
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,989	5,565
為替換算調整勘定	25,995	32,826
その他の包括利益累計額合計	29,984	38,391
新株予約権	-	14,548
少数株主持分	49,066	59,249
純資産合計	3,766,848	4,046,121
負債純資産合計	7,160,543	7,974,029

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	6,199,178
売上原価	4,306,955
売上総利益	1,892,222
販売費及び一般管理費	1 1,169,178
営業利益	723,044
営業外収益	
受取利息	728
投資事業組合運用益	6,919
その他	9,459
営業外収益合計	17,107
営業外費用	
支払利息	15,716
持分法による投資損失	3,547
為替差損	1,155
その他	512
営業外費用合計	20,931
経常利益	719,220
税金等調整前四半期純利益	719,220
法人税、住民税及び事業税	352,374
法人税等調整額	15,986
法人税等合計	368,360
少数株主損益調整前四半期純利益	350,859
少数株主利益	9,402
四半期純利益	341,456

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	350,859
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,576
為替換算調整勘定	7,610
その他の包括利益合計	9,186
四半期包括利益	360,046
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	349,863
少数株主に係る四半期包括利益	10,182

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成26年4月1日
至平成26年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	719,220
減価償却費	126,232
のれん償却額	81,115
貸倒引当金の増減額(は減少)	8,418
賞与引当金の増減額(は減少)	5,729
受取利息及び受取配当金	728
支払利息	15,716
為替差損益(は益)	1,278
持分法による投資損益(は益)	3,547
投資事業組合運用損益(は益)	6,919
売上債権の増減額(は増加)	39,210
たな卸資産の増減額(は増加)	13,218
未払金の増減額(は減少)	206,493
未払費用の増減額(は減少)	10,045
未払消費税等の増減額(は減少)	77,787
その他の流動資産の増減額(は増加)	37,107
その他の流動負債の増減額(は減少)	279,414
その他	14,360
小計	460,964
利息及び配当金の受取額	726
利息の支払額	15,720
法人税等の支払額	513,021
法人税等の還付額	152,360
営業活動によるキャッシュ・フロー	85,309
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	44,150
有形固定資産の売却による収入	47
無形固定資産の取得による支出	63,972
投資有価証券の取得による支出	25,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	214,649
投資事業組合からの分配による収入	13,500
敷金及び保証金の差入による支出	32,784
敷金及び保証金の回収による収入	2,351
その他	1,916
投資活動によるキャッシュ・フロー	362,742

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成26年4月1日
至平成26年9月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	1,410,000
短期借入金の返済による支出	1,645,700
長期借入れによる収入	100,000
長期借入金の返済による支出	120,914
株式の発行による収入	230
配当金の支払額	95,499
リース債務の返済による支出	12,563
新株予約権の発行による収入	14,548
その他	12,960
財務活動によるキャッシュ・フロー	362,858
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,513
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	633,778
現金及び現金同等物の期首残高	3,693,276
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,059,498

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、株式会社プレミアムエージェンシーの株式取得及び第三者割当増資引受により、同社を子会社化したため、連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、株式会社リインフォースの重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、株式会社プレミアムエージェンシーを連結の範囲に含めたことに伴い、以下の新たな会計処理を採用しております。

(重要な収益及び費用の計上基準)

当四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められるプロジェクトについては、工事進行基準(進捗率の見積りは原価比例法)を適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
仕掛品	15,829千円	29,247千円
貯蔵品	424千円	488千円
合計	16,254千円	29,736千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
給与手当	336,314千円
賞与引当金繰入額	15,787千円
貸倒引当金繰入額	753千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金	3,059,498千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-
現金及び現金同等物	3,059,498千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	95,553	8	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月4日 取締役会	普通株式	95,563	8	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ 事業	メディア 事業	クリエイ ティブ事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,523,772	235,580	807,822	5,567,176	632,002	6,199,178		6,199,178
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,264		3,008	9,272	7,823	17,095	17,095	
計	4,530,036	235,580	810,830	5,576,448	639,825	6,216,273	17,095	6,199,178
セグメント利益又は 損失()	1,116,972	117	206,453	910,635	24,485	935,121	212,076	723,044

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業及びFuguai.com事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 212,076千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、株式取得及び第三者割当増資引受により株式会社プレミアムエージェンシーを子会社化したため、同社を連結の範囲に含めております。これにより前連結会計年度の末日に比べ、「クリエイティブ事業」のセグメント資産が1,617,690千円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

第1四半期連結会計期間より、株式会社プレミアムエージェンシーを連結子会社化したことに伴い、重要性が増したため、同社の事業を「クリエイティブ事業」とし、新たな報告セグメントとして記載するとともに、前連結会計年度まで「その他」として区分していた「開発アウトソーシング事業」及び「映像制作事業」を当該セグメントに含めております。

これに伴い、当社グループの報告セグメントは、従来までの「デバッグ事業」及び「メディア事業」に、新たに「クリエイティブ事業」を加え、報告セグメントに含まれない事業を「その他」として区分しております。

(事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

第1四半期連結会計期間より、セグメントの業績をより適切に評価するために費用の配分方法等を変更しております。

これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のセグメント利益が271,312千円減少しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「クリエイティブ事業」において、第1四半期連結会計期間に株式会社プレミアムエージェンシーの株式取得及び第三者割当増資引受により同社を子会社化したことに伴い発生したのれんの額は、当第2四半期連結累計期間において709,575千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	28円59銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	341,456
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	341,456
普通株式の期中平均株式数(株)	11,944,296
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	28円59銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	
普通株式増加数(株)	1,009
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	平成26年5月9日開催の取締役会決議に基づく第3回新株予約権 新株予約権の個数 4,200個 新株予約権の目的となる株式数 普通株式 420,000株

2 【その他】

第2期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）中間配当について、平成26年11月4日開催の取締役会において、平成26年9月30日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	95,563千円
1株当たりの金額	8円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年12月5日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月7日

株式会社ハーツユニテッドグループ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤本 貴子 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野田 智也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハーツユニテッドグループの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して株式会社ハーツユニテッドグループ及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成26年3月31日をもって終了した前連結会計年度の連結財務諸表は、前任監査人によって監査が実施されている。前任監査人は、当該連結財務諸表に対して平成26年6月26日付で無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。